

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。
c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

第一問 (評論) 採点基準 (合計点40点)

(一) 8点

● 傍線部アの前の第六段落を中心に使って作られた解答を「型」、後ろの第八、九、十段落を中心に使って作られた解答を「型」とし、また両方の内容が入り交じっている場合には、意味内容の比重によって、どちらと考えるのが適切かを判定し、その判定に基づき、「I、II」それぞれの基準に則って採点をする。

(模範解答例「型」)

A①〇1点 A②〇1点

模範は そこに自分の姿を見出し、その姿を俯瞰するのと同時に、

B①〇1点

B②〇1点

外化した自分を空間的に把握し、自分そのものを言語により概念化して

X 〈分析〓分けること〉〇1点

C〇1点

Y 〈総合〓まとめること〉〇1点

捉え直すものであるということ。 (8点)

(模範解答例「型」)

A①〇1点 A②〇1点

模型では、その中の自分を俯瞰する形となり、背後にさらに俯瞰の目を感じさせ

るが、

A③〇1点

B①〇1点

B②〇1点

これが全体の概念が、その外部を含む更なる全体を構想させるのに

X 〈分析〓分けること〉〇1点

C〇1点

Y 〈総合〓まとめること〉〇1点

対応すること。 (8点)

【構造点】

・模範解答例の「型」、「型」の何れにおいても、次の構造点を設定する。

・Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉して説明する構造(〳仕組み)への評価である。I、II型においてともに、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〳分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bを、条件Cで〈総合〳まとめること〉する構造への評価である。I、II型においてともに、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あり、加えて条件Cがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合〳まとめること〉 Aの要素+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

○ I型の採点ポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内の要素間においても、原則的に部分採点可能。「解答解説ではCを分離していなかったが、採点ではCを分離して考慮する。」(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。「条件Cを分離したことによって、解答解説には含まれていなかった、Y〈総合〳まとめること〉の構造点が加味されている。」(2点満点)

A 「模型はそこに自分の姿を見出し、その姿を俯瞰するのと同時に、」(3点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。〈視覚〉の条件。

① 「模型は」の要素に1点。

※ 条件Aを説明するための〈話題提示〉の要素。

○ 「模型とは」、「模型においては」などでも可。

× 「模型」の成分がなければ×0点。

② 「そこに自分の姿を見出し、」の要素に1点。

○ 「そこに自分を見つけ、」、「その中に自分の姿を見、」などでも可。

× 「自分の姿を見出す」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「その姿を俯瞰するのと同時に、」の要素に1点。

○ 「それを俯瞰すると同時に」、「自分の姿を俯瞰するだけでなく、」などでも可。

× 「俯瞰」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

B 「外化した自分を空間的に把握し、自分そのものを言語により概念化して」(2点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。〈言語〉の条件。

① 「外化した自分を空間的に把握し、」の要素に1点。

○ 「自分を外化して、空間的に把握し、」対象化した自分を空間において把握し、」などでも可。

× 「外化した自分」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「自分そのものを言語により概念化して」の要素に1点。

○ 「自分を概念化して言葉に表現し、」言葉によって自分を表して、」などでも可。

× 「言葉で表現」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

C 「とらえ直すものであるということ。」(1点)

※ A、Bをまとめる条件。

○ 「把握し直すものだけということ。」「捉え直させるものだけということ。」などでも可。

× 「捉え直す」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

○ II型の採点ポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内の要素間においても、原則的に部分採点可能。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(2点満点)

A 「模型では、その中の自分を俯瞰する形となり、背後にさらに俯瞰の目を感じさせるが、」(3点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。〈視覚〉の条件。

① 「模型では」の要素に1点。

※ 条件Aを説明するための〈話題提示〉の要素。

○ 「模型においては、」模型は」などでも可。

× 「模型」の成分がなければ×0点。

② 「その中の自分を俯瞰する形となり、」の要素に1点。

○ 「そこに自分を俯瞰することになり、」その中にある自分を俯瞰する構図となり、」などでも可。

× 「自分を俯瞰する」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

③ 「背後にさらに俯瞰の目を感じさせるが、」の要素に1点。

○ 「さらに俯瞰する目を感じてしまい」、「俯瞰する自己をさらに俯瞰する目を想定させ」、「などでも可。

× 「さらなる俯瞰の目」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「これが全体の概念がその外部を含む更なる全体を構想させるのに」(2点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。〈言語〉の条件。

① 「これが全体の概念が」の要素に1点。

○ 「この仕組みが全体なる概念が」「この視覚の構造が全体という概念が」などでも可。

× 「全体の概念」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「その外部を含む更なる全体を構想させるのに」の要素に1点。

○ 「その外部を内包する更なる全体を想像させるのに」、「その外側から更にそれを含み込む全体を予想させるのに」などでも可。

× 「更なる全体」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「対応すること。」(1点)

※ A、Bをまとめる条件。

○ 「相似形であること。」「構造同一であること。」などでも可。

× 「対応する」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

(二) 8点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点 A③○1点

視覚が確立して、見られる動物は 見てくれで騙し欺くようになる一方、

B①○1点 B②○1点 B③○1点 B④○1点

人間は 生き延びるために、その虚偽を拭い去って 現象の後の真実に到達しよ

X〈分析Ⅱ分けること〉○1点

うとすること。(8点)

【構造点】

・Xは、傍線部を、〈矛盾しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉として説明する構造への評価である。

A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析Ⅱ分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士で、また各条件内の要素間においても原則的に部分採点可能である。
(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り1点加点する。(1点)

A 「視覚が確立して、見られる動物は見てくれで騙し欺くようになる一方」(3点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件である。「動物」の側の条件。

① 「視覚が確立して、」の要素に1点。

○ 「見ることが成立して、」視覚が成立した段階で「などでも可。

× 「視覚の確立」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「見られる動物は」の要素に1点。

○ 「動物は見られること」で「視覚の対象となる動物は」などでも可。

× 「見られる動物」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「見てくれで騙し欺くようになる一方、」の要素に1点。

○ 「演出で騙し、欺くようになる一方、」虚偽によって欺こうとするようになるが、「
などでも可。

× 「騙す(欺く)」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

B 「人間は生き延びるために、その虚偽を拭い去って現象の後の真実に到達しようとすること。」(4点)

※ 傍線部を説明する、他方の条件である。「人間」の側の条件。

① 「人間は」の要素に1点。

○ 「人間の場合は」「それに対して人間は」などでも可。

× 「人間」の成分が入っていないければ×0点。

② 「生き延びるために、」の要素に1点。

○ 「生き抜くために、」「生を全うするために、」などでも可。

× 「生延びる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「その虚偽を拭い去って」の要素に1点。

○ 「その虚偽を拭い去るように」「虚構を破棄して」などでも可。

× 「虚偽の否定」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

④ 「現象の後の真実に到達しようとすること。」の要素に1点。

○ 「現象の後から登場する本質に到ろうとすること。」「虚構の後の真実を知ろうとすること。」「などでも可。

× 「現象(虚偽、虚構)の後の真実(真理、本質)」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

(三) 8点

● 司馬と吉田の「批評と小説をない交ぜにしたような文体」が焦点であったと思われるが、当該第二三段落では「小説」とのみ語っていて、ここでは「小説Ⅱ批評＋小説」の意味で使っていると思われるので、どちらの書き方でもよしとして、「批評＋小説」の書き方をした解答を「Ⅰ型」、「小説」の書き方をした解答を「Ⅱ型」として、それぞれの基準に従って採点する。「Ⅰ型」、「Ⅱ型」では、条件B、Cの内容が入れ替わっていることに注意。条件の順番に従って記号を割り振っている都合による。

(模範解答例Ⅰ型)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

吉田・司馬の

批評と小説を混合した

文体は、

B①〇1点

B②〇1点

超越的視点を否定する

実存主義の潮流の中にあるものの、

C①〇1点

C②〇1点

俯瞰する眼を含んで、

思考の生理、視覚の自然に合致していたから。

X〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉〇1点 (8点)

(模範解答例Ⅱ型)

A①〇1点

A②〇1点

吉田・司馬の

小説は、

B①〇1点

B②〇1点

視覚を発達させた人間の全体を俯瞰する

超越的な視点で書かれており、

C①〇1点

C②〇1点

それを否定する

実存主義の流行の中で、

B③〇1点

人間の思考の生理、視覚の自然に合致するものだったから。

X〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉〇1点 (8点)

【構造点】

・模範解答例の「Ⅰ型」、「Ⅱ型」の何れにおいても、次の構造点を設定する。

・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する〈逆説Ⅱ矛盾を

含むこと」の構造への評価である。ここでは、条件A、B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

○ I型の採点ポイント

A①○1点 A②○1点 A③○1点

吉田・司馬の 批評と小説を混合した 文体は、

B①○1点 B②○1点

超越的視点を否定する 実存主義の潮流の中にあるもの、

C①○1点 C②○1点

俯瞰する眼を含んで、 思考の生理、視覚の自然に合致していたから。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉○1点 (8点)

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内の要素間でも原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(1点)

A 「吉田・司馬の批評と小説を混合した文体は、」(3点)

※ 傍線部を説明するための頭の条件。話題提示の条件。

① 「吉田・司馬の」の要素に1点。

○ 「吉田や司馬の」「吉田(司馬)たちの」などでも可。

× 「吉田(司馬)」の成分が入っていなければ×0点。

② 「批評と小説を混合した」の要素に1点。

○ 「批評と小説をないまぜにしたような」「批評と小説を融合させた」などでも可。

× 「批評と小説」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

③ 「文体は、」の要素に1点

○ 「スタイルは、」「文章表現の様式は、」などでも可。

× 「文体」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

B 「超越的視点を否定する実存主義の潮流の中にあるもの、」(2点)

※ Aを説明するための一方の条件。

① 「超越的視点を否定する」要素に1点。

- 「超越的な視点に立つことがない」「超越的視点を排除する」などでも可。
- × 「超越的視点の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「実存主義の潮流の中にあるものの」、「要素に1点。
- 「実存主義の流行の中にあつて」、「実存主義が支配的であつたが、」などでも可。
- × 「実存主義」の成分が入っていなければ×0点。

C 「俯瞰する眼を含んで、思考の整理、視覚の自然に合致していたから。」(2点)

※ Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

- ① 「俯瞰する眼を含んで」の要素に1点。
- 「超越的な視点を持つて」「俯瞰する視点を組み込んで」などでも可。
- × 「俯瞰する眼(超越的な視点)」のニュアンスの二成分が入っていないければ×0点。
- ② 「思考の整理、視覚の自然に合致していたから。」の要素に1点。
- 「思考の整理の在り方に適合していたから。」「視覚の自然に見合っていたから。」などでも可。
- × 「思考の整理(視覚の自然)」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

○ Ⅱ型の採点ポイント

A①○1点 A②○1点

吉田・司馬の 小説は、

B①○1点

B②○1点

視覚を発達させた人間の全体を俯瞰する

超越的な視点で書かれており、

C①○1点

C②○1点

それを否定する 実存主義の流行の中で、

B③○1点

人間の思考の生理、視覚の自然に合致するものだったから。

X〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉○1点 (8点)

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内の要素間でも原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、先に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(1点)

A 「吉田・司馬の小説は」(2点)

※ 傍線部を説明するための頭の条件。話題提示の条件。

① 「吉田・司馬の」の要素に1点。

○ 「吉田や司馬の」「吉田（司馬）たちの」などでも可。

× 「吉田（司馬）」の成分が入っていないければ×0点。

② 「小説は、」の要素に1点。

○ 「小説が、」「小説こそは、」などでも可。

× 「小説」の成分が入ってなければ×0点。

B 「視覚を発達させた人間の全体を俯瞰する超越的な視点で書かれており、」「人間の思考の生理、視覚の自然に合致するものだったから。」（3点）

※ Aを説明するための一方の条件。

① 「視覚を発達させた人間の全体を俯瞰する」要素に1点。

○ 「視覚を確立した人間の俯瞰する」「視覚を十分に機能させる人間の俯瞰する」などでも可。

× 「俯瞰」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「超越的な視点で書かれており、」の要素に1点。

○ 「超越的な視点で描写されており、」「超越的視点を含んでおり、」などでも可。

× 「超越的な視点」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「人間の思考の生理、視覚の自然に合致するものだったから。」

※ 解答末尾要素だが、条件Bに含まれるものと判断する。

○ 「人間の思考の生理にみあうものであったから。」「人間の視覚の整理に適合していたから。」などでも可。

× 「人間の思考の整理（視覚の自然）に合致」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「それを否定する実存主義の流行の中で、」（2点）

※ Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。模範解答例Ⅱ型では、B③の前に置かれている。

① 「それを否定する」の要素に1点。

○ 「超越的な視点を拒否する」「神の視点を否定する」などでも可。

× 「超越的な視点の否定」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「実存主義の流行の中で、」の要素に1点。

○ 「実存主義の隆盛の中で、」「実存主義の潮流の最中であって、」などでも可。

× 「実存主義の流行」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

(模範解答例)

A ○1点

俯瞰する眼が持つ、

B ①○1点

B ②○1点

B ③○1点

自分が何を見、相手の眼に自分がどう見えるかを知るのに必要な

視覚の延長として、

C ①○1点

C ②○1点 C ③○1点

またそこから派生した

物語る

話者の視点として、

X 〈分析〓分けること〉○1点

D ①○1点

D ②○1点

D ③○1点

一方で視覚が必然的にもたらしてしまう

虚偽、つまり現象から、

真理や真実を引

D ④○1点

Y 〈総合〓まとめること〉○1点

出すために 不可欠な働きのこと。(13点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明するために、条件Aを〈矛盾 しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉としてゆく構造への評価である。ここでは、条件Aがあり、条件B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っている、この構造の骨組みは成立している」と見なして1点加点。

X 〈分析〓分けること〉

A + Bの要素 + Cの要素 ○1点

・ Yは、傍線部に関して、条件B、Cを条件Dに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Aと、条件B、C、D内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立している」とみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉

Bの要素 + Cの要素 + Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内の要素間においても原則的に部分採点可能である。(11点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(2点満点)

※ 「100字以上120字以内」という字数制限付きの設問であるから、字数不足・字

数オーバーは採点対象外、つまり総点0点である。

A 「俯瞰する眼が持つ、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題の条件。

- 「俯瞰する眼が抱えている、」「俯瞰する眼が内包する、」などでも可。
- × 「俯瞰する眼」の成分が入っていないければ×0点。

B 「自分が何を見、相手の眼に自分がどう見えるかを知るのに必要な視覚の延長として、」(3点)

※ 傍線部に関して、Aを説明するための一方の条件。

① 「自分が何を見、」の要素に1点。

- 「自分が何を見ているか」「何を自分は見ているのか」などでも可。
- × 「自分が何を見」のニュアンスの成分が入っていないと×0点。

② 「相手の眼に自分がどう見えるかを知るのに必要な」の要素に1点。

「相手の眼にどう自分が映っているのかを知るための」、「自分が相手にどう見えているのかを知るのに不可欠な」などでも可。

- × 「相手の眼に自分がどうみえるか」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「視覚の延長として、」の要素に1点。

- 「視覚の拡張として、」「視覚の敷衍されたものとしての」などでも可。
- × 「視覚の延長」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「またそこから派生した物語る話者の視点として、」(3点)

※ 傍線部に関して、Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「またそこから派生した」の要素に1点。

- 「さらに前者(≠条件B)から転用された」「またそれ(≠条件B)に支えられた」などでも可。
- × 「そこ(≠条件B)から派生」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「物語る」の要素に1点。

- 「物語の」「話し書くこと」などでも可。
- × 「物語る」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「話者の視点として、」の要素に1点。

- 「話し手の視線として、」「語り手の視点として」などでも可。
- × 「話者の視点」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「一方で視覚が必然的にもたらしてしまう虚偽、つまり現象から、真理や真実を引出すために不可欠な働きのこと。」(4点)

※ 条件B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「一方で視覚が必然的にもたらしてしまう」の要素に1点。

○ 「視覚が初期的にもたらしてしまう」「視覚の必然としてもたらされる」などでも可。

× 「視覚の必然」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「虚偽、つまり現象から、」の要素に1点。

○ 「見てくれ、あるいは虚構から、」「騙しや欺きから、」などでも可。

× 「虚偽（見てくれ、虚構、現象、騙し、欺き）」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「真理や真実を引出すために」の要素に1点。

○ 「真実や本質を抽出するために」「真実を取り出すために」などでも可。

× 「真理（真実、本質）の引出し」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④ 「不可欠な働きのこと。」の要素に1点。

○ 「欠くことのできない機能のこと。」「必須の働きのこと。」などでも可。

× 「不可欠な働き」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

(五) 各1点(合計3点)

a || 抽象

b || 不条理

c || 潮流

(一) 文科イ・理科イ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 はかなくなり B1 な C1 ん後、

〔解答例〕

A1 (私が) 死んで B1 しまった C1 ような後、

〔ポイント〕

※「私が」の有無は不問。

A【1点】 はかなくなり ↓ 死んで

※「亡くなり」等でもよい。

B【1点】 な ↓ しまった

※「〜しまう・〜た」等、完了の意があればよい。

C【1点】 ん後、 ↓ ような後、

※「ん」の婉曲(〜ような)の意が訳出されていない場合は×。

※「後」がない場合は×。

(一) 文科エ・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。

【3点】

〔傍線部〕

A1 心一つに B1 思ふも C1 苦しければ、

〔解答例〕

A1 (自分) 一人で B1 思い悩むのも C1 つらいので、

〔ポイント〕

※「自分」の有無は不問。

A【1点】心一つに ↓ 一人で

※「自分だけで」でもよい。

B【1点】思ふも ↓ 思い悩むのも

※「悩むのも・考えるのも」等でもよい。

※Aが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は除く。

C【1点】苦しければ、 ↓ つらいので、

※「苦しいので」でもよい。

※Aが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は除く。

(一) 文科キ・理科才 傍線部を現代語訳せよ。

【3点】

〔傍線部〕

A2 立ち後る B1 べき C1 心地

〔解答例〕

A2 生き残っていたら B1 れる C1 気持ち

〔ポイント〕

A【1点】立ち後る ↓ 生き残っていたら

※「死に遅れる・後に残る」等でもよい。

B【1点】べき ↓ れる

※ possible の意があればよい。

※Aが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は除く。

C【1点】心地 ↓ 気持ち

※「気分・感じ」等でもよい。

※Aが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は除く。

〔傍線部〕

水茎の跡見るからになほぞ悲しき

〔解答例〕

A1 姫君の B2 筆跡を見ると今でもすぐに C1 姫君のことが思われて D1 悲しくなる

〔ポイント〕

A【1点】 補い ↓ 姫君の

※Bに「筆跡を見ると」の意がある場合のみ得点できる。

B【2点】 水茎の跡見るからになほ ↓ 筆跡を見ると今でもすぐに

※「筆跡を見ると」がない場合は×。「筆跡」は「文字・手跡」などでもよい。

※「筆跡を見ると」があり、「なほ」の訳「今でも・やはり・まだ・さらに・いっそう」等があれば【1点】。

※「筆跡を見ると」があり、「からに」の訳「すぐに」があれば【1点】。

C【1点】 補い ↓ 姫君のことが思われて

※同意であればよい。

※BもDもO点の場合は得点できない。ただし、誤字等でO点になっている場合は除く。

D【1点】 悲しき ↓ 悲しくなる

※「悲しい」でもよい。

※Bに「筆跡を見ると」の意がある場合のみ得点できる。

〔傍線部〕

局へ行ってとかく継ぎつつ見る

〔解答例〕

A1 乳母が、**B2** 中納言が破いた**C2** 紙をつなぎ合わせて何が書かれているのかを見た。

〔ポイント〕

A【1点】 乳母が、

※**C**が0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は除く。

B【2点】 中納言が破いた

※「中納言が渡した・中納言が託した・中納言が破いた」等、紙に中納言が関わっている説明があれば**【1点】**。

※「破いた・破れた」の意があれば**【1点】**。

C【2点】 紙をつなぎ合わせて何が書かれているのかを見た。

※「紙をつないだ・紙を継いでみた」の意があれば**【1点】**。

※「紙に何が書かれているか見た・紙に書かれている内容を確認した(調べた)」の意があれば**【1点】**。

文科(四) **文科のみ** 傍線部「……」とあるが、中納言のどのような心を言っているのか、説明せよ。

【5点】

〔傍線部〕

思はずなる心遣ひによりて身に代へ給ふべき御心

〔解答例〕

A3 かなわぬ恋のために**B2** 死んでもよいと思う心。

〔ポイント〕

A【3点】 かなわぬ恋のために

※**B**が**0点**の場合は得点できない。ただし、誤字等で**0点**になっている場合は除く。

※「恋のために・恋で・恋に」等の意があれば**【2点】**。

※右の意があり、「かなわぬ・思い通りにならない・上手くないかない」等の意があればさらに**【1点】**。

B【2点】 死んでもよいと思う心。

※**A**が**0点**の場合は得点できない。ただし、誤字等で**0点**になっている場合は除く。

※「死ぬ」は「命を落とす」等でもよい。

〔傍線部〕 かくばかり思はれけることをいかでか我さへあるまじきことと思ひ侍らん

〔解答例〕 **A3** 息子の真剣な恋心を、**B3** 親である自分が否定する「とはできないという」こと。

〔ポイント〕

A【3点】 息子の真剣な恋心を、

※**Bが0点**の場合は得点できない。ただし、誤字等で**0点**になっている場合は除く。

※「息子」は「中納言」でもよい。

※「息子の恋心を・息子の恋を」の意があれば**【2点】**。

「息子を」の意があるが、「恋・恋心」の意がない場合は**【1点】**。

※右で得点があり、「真剣な・熱心な」などの意があればさらに**【1点】**。

B【3点】 親である自分が否定することはできないという「こと」。

※**Aが0点**の場合は得点できない。ただし、誤字等で**0点**になっている場合は除く。

※「自分は」はなくてもよい。

※「否定できない」の意があれば**【2点】**。

「止められない」となっている場合は**【1点】**。

※右で得点があり、「親でも」の意があればさらに**【1点】**。

2019年度 最終 1月 東大本番レベル模試 国語採点基準

第三問

(一) a 漢詩を作ること(2点)

※「詩文を作ること」「漢詩」は○2点。

※「詩を作ること」「作詩」は△減点1点

※「歌(を作ること)」「俳句(を作ること)」「韻をふむこと」「押韻すること」などは×0点

(一) b ひまをつぶしている(2点)

※動詞になっていない「ひまつぶし」「や、遊んでいる」「遊び呆けている」は△減点1点

※「寝ている」「寝ころんでいる」「ゴロゴロしている」なども×0点

(一) c ほんのわずかも(2点)

※「一寸も」は×0点

(二)

a 2点

あつという間に時は過ぎ、

b 4点

老いが今にも訪れることに気づかない。(6点)

a 「歳月の倏忽として」の解釈 2点

※ 「歳月」の意味があつていて「倏忽」を誤っているものは減点1点

b 「老いの将に至らんとするを知らず」の解釈 4点

※ 「今にも訪れる」など再読文字の要素に3点

※ 「今にも至ろうとしている」など「至る」のままでは減点1点

※ 「今にも・すぐにも」の要素がない「訪れようとしている」などは減点1点

※ 「訪れる」「やってくる」などは減点2点

※ 「老化」は減点1点

(三)

a 2点

b 2点

勉学に励んでいた頃に比べて、学問にわずかの進歩もなく

c 2点

d 1点

無為に過ごし、時の流れの早さにも気づかず、

e 1点

f 不問

山海に遊んだりしている から (8点)

a 直前部「当時の苦学に視ぶれば」の要素 2点

※「当時の苦学に比べて」のままでは減点1点

※「学問に苦しむ」は減点1点

※「貧しくて勉強できなかった」「働きながら学んでいた」は×0点

b「未だ寸毫もく有らず」の要素 2点

※「学問に進歩がなく」「学問に成長も見られず」などで2点

※「勉強がなかなか進まず」「進んで勉強しようとせず」などは×0点

c「碌碌として」の要素 2点

※「無為に過ごし」「何もしないで」など「注」を参考に解答する

d「歳月の倏忽としてく知らず」の要素 1点

※「時の流れの早さにも気づかず」「老いはすぐにもやってくるのに気づかず」など○1点

e「漫りに山海の遊を為し」の要素 1点

※「山海に遊んだりしている」「海や山へ出かけたりしている」など○1点

f 文末の「くので」「くから」の有無は不問とする。

(四) 文科のみ

a 2点

波の音が松に吹く風の音のように思え、

b 2点

c 1点

d 1点

故郷の家で 勉強していた 寒い夜に聞いた、

e 2点

f 2点

g 不問

庭の木々に吹きわたる風を 思い出した ということ (10点)

a 「濤声」を「松籟の声」と聞いた(思った)要素 2点

※ 「波の音を聞いて」のみで且つ e が「松籟を」だと減点1点

※ 「濤声」「松籟」をそのまま用いている場合は減点1点

b 「家に在りしの日」の要素 2点

※ 「故郷の家で」「実家で」など○

c 「戸を閉ぢて書を読む」の要素 1点

※ 「学問に励んでいた」など○

d 「天大いに寒く」の要素 1点

※ 「寒い」「夜」であることが必要。どちらかが欠けたら×

e 「燥風く皆鳴りし」の要素 2点

※ 「(自宅の)庭」「窓の外」の要素が欠けているものは減点1点

※ 「木々(樹木)」の要素が欠けているものは減点1点

※ 「梧竹や松楓」「梧竹松楓」などそのまま書いているものは減点1点

※ 「(木々に)」「風が吹いていた要素の欠けたもの減点2点、

ここを「松籟」とするもの減点1点

f 「郷夢を欺き」の要素 2点

※ 「思い出した」など○

※ 「くの夢を見た」は減点1点

g 文末の「くということ」については不問とする。

第四問 現代文（随筆） 採点基準（合計20点）

（） 5点

（模範解答例）

A①○1点

A②○1点

座席の横に荷物を置き他の客の迷惑になっているのを たしなめる気持だったが、

B①○1点

B②○1点

その後本に熱中する姿に、 周りのスマートフォンに夢中の客と比べて好感を持った。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉○1点（5点）

【構造点】

・Xは、傍線部前後の筆者の心情を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説⇨矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、また各条件内の要素間においても原則的に部分採点可能である。（4点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。（1点）

A 「座席の横に荷物を置き他の客の迷惑になっているのをたしなめる気持だったが、」（2点）

※ 傍線部前後の心情を説明するための、前の言わばマイナスの条件。

① 「座席の横に荷物を置き他の客の迷惑になっているのを」の要素に1点。

○ 「上履き袋などを座席の横に置いて他の客の迷惑になっていることを」「学校用具を席の横に投げ出して他の客を座れなくしているのを」などでも可。

× 「座席に荷物」「他の客の迷惑」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「たしなめる気持だったが、」の要素に1点。

- 「注意する気持だったが、」「分からせる気だったが、」などでも可。
- × 「たしなめる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「その後本に熱中する姿に、周りのスマートフォンに夢中の客と比べて好感を持った。」
(2点)

※ 傍線部前後の心情を説明するための、Aとは〈矛盾〉する、後のいわばプラスの条件。

① 「その後本に熱中する姿に、」の要素に1点。

- 「荷物を膝に置いてすぐ一心不乱に本に向かう姿に、」「荷物を片付けるやいなや本に夢中になる姿に、」などでも可。

× 「本に熱中」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「周りのスマートフォンに夢中の客と比べて好感を持った。」の要素に1点。

- 「スマートフォンに中毒した客に比して好感が持てた。」「スマートフォンにかかり切りの客達と比べて好印象を持った。」などでも可。

× 「スマートフォンに夢中の客」「好感」のニュアンスの二成分が入っていないければ×0点。

(二) 5点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

小学生が何かを探してページを逆にめくりだしたので

緊迫感を共有したが、

B①○1点

B②○1点

何かを発見して発した「たしかに……」という小学生らしからぬ言葉が それを解放し

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉○1点

たから。(5点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説⇨矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、B内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みが成立していると思なして1点加算。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、また各条件内では要素間において原則的に部分採点可能である。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(1点)

A 「小学生が何かを探してページを逆にめくりだしたので緊迫感を共有したが、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための一方の条件。

① 「小学生が何かを探してページを逆にめくりだしたので」の要素に1点。

○ 「小学生が何かを探してページをめくったり止まったりしているのを見て」「何かを探しながら勢いよくページをめくっている小学生の姿を見て」などでも可。

× 「小学生」「何かを探してページをめくる」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「緊迫感を共有したが、」の要素に1点。

○ 「緊迫感が伝わってきたが、」「緊張感が転移してきたが、」などでも可。

× 「緊迫感の共有」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「何かを発見して発した『たしかに……』』という小学生らしからぬ言葉がそれを解放したから。」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「何かを発見して発した『たしかに……』』という小学生らしからぬ言葉が」の要素に1点。

○ 「何かを探り当ててつぶやいた『たしかに……』』という小学生に似合わぬ言葉が」
「何かを見出して口にした『たしかに……』』という小学生とは思えぬ言葉が」などでも可。

× 「何かを発見」『たしかに……』』という小学生らしからぬ言葉」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「それを解放したから。」の要素に1点。

○ 「緊迫感を解放したから。」「緊張感を緩めたから。」などでも可。

× 「緊迫感の解放」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

(三) 4点

(模範解答例)

A ○1点

「たしかに……」を生んだ本は安直には見つけられないと悟り、

B ① ○1点

またそれを手にすれば、知らないで済ませたはずの、
実は気付きたくなかった感情に

B ② ○1点

X 〈分析Ⅱ分けること〉 ○1点

気付いてしまった。(4点)

【構造点】

・Xは、傍線部の行為の結果を、A、Bの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉して説明する構造への評価である。条件Aと、条件B内の要素が一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているときみなして1点加算。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、また条件B内の要素間においても原則的に部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(1点満点)

A 『たしかに……』を生んだ本は安直には見つけられないと悟り、(1点)

※ 傍線部の行為の結果を説明する一方の条件。

○ 『たしかに……』と言わせた本は簡単に見つけられないと分り、「『たしかに……』とつぶやかせた本は容易には見つけられないと知り、「などでも可。

× 『たしかに……』を生んだ本「安直には見つけられない」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

B 「またそれを手にすれば、知らないで済ませたはずの、実は気付きたくなかった感情に気付いてしまった。」(2点)

※ 傍線部の行為の結果を説明する、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「またそれを手にすれば、知らないで済ませたはずの、」の要素に1点。

- 「さらにそれを手に入れれば、知らなかったもとして済ませられたはずの、」「またそれを得たならば、知らないままに済ませられたはずの、」などでも可。
- × 「それ（『たしかに……』を生んだ本）を手にする」「知らないで済ませた」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。
- ② 「**実は気付きたくなかった感情に気付いてしまった。**」の要素に1点。
- 「本当は気付きたくはなかった気持ちを知ってしまった。」「気付きたくはなかった感情に触れてしまった。」などでも可。
- × 「本当は気づきたくはなかった感情の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

四 6点

(模範解答例)

A ○1点

自由にならない時間を有効に使うとしていた自分に比べて、

B ① ○1点

小学生の、時間の流れも空間の存在も感じることなく、

B ② ○1点

ただただ本に熱中する仕方に

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

感じた

C ○1点 Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

羨ましさ。

【構造点】

・ Xは、傍線部の「その知りたくなかった感情」を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは条件Aと、条件Bの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとして1点加点。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの+Bの要素 ○1点

・ Yは、A、Bの二条件を、条件Cに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件Bの要素が一つ以上、それに条件Cがそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 A+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において、また条件B内の要素間で部分採点可能である。(4点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(2点)

A 「自由にならない時間を有効に使うとしていた自分に比べて、」(1点)

※ 傍線部の「感情」を説明するための一方の条件。「自分」の側の条件。

○ 「自由に扱えない時間を無駄にせずに使うとしていた自分に対して、」「時間を効率よく使おうとしていた自分に比して、」などでも可。

× 「時間を有効に使う」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「小学生の、時間の流れも空間の存在も感じることなく、ただただ本に熱中する仕方に感じた」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「小学生の、時間の流れも空間の存在も感じることなく、」の要素に1点。

○ 「小学生が時間と空間の制約を感じることなく、」小学生が時間の流れに制限されずに時間をふんだんに使って、」などでも可

× 「小学生」「時間の流れ(空間の存在)はあってもなくてもよいとする)を感じない」のニュアンスの二成分がそろっていないならば×0点。

② 「ただただ本に熱中する仕方に感じた」の要素に1点。

○ 「ひたすら本に熱中する姿に感じた」「脇目もふらず本に熱中する有り様に感じた」などでも可。

× 「本に熱中」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

C 「羨ましさ。」(1点)

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

○ 「羨む気持ち。」「羨ましいと思う気持ち。」などでも可。

× 「羨ましさ」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。